

県外派遣報告書		
審判員名	竹澤 友美	所属 ミニ連盟
大会名	平成27年度 関東高等学校女子バスケットボール大会	
期間	平成27年6月6日(土)～7日(日)	
会場	山梨県 富士北麓公園体育館・富士吉田市営鐘山スポーツセンター総合体育館	
スケジュール		
期 日	内 容	場 所
6月5日(金)	審判会議	富士山ステーションホテル1階会議室
6月6日(土)	ABブロッカー・二回戦	富士吉田市営鐘山スポーツセンター総合体育館
6月7日(日)	日本公認講習会:講師:阿部哲也氏・渡辺雄吉氏	富士北麓公園体育館
	ABブロック準決勝・決勝	
会議		
安西関東ブロック長:1年間の関東大会が先週から始まり、チームも審判もそれぞれの戦いが始まっていると思う。審判として欲を持って取り組み、夢だと思わずに目標に向かって1つずつステップアップしてほしい。		
審判会議講義内容		
加藤誉樹氏: ランクアップに際した意識と取り組み		
<p>○コート内での取り組み:「ABC」の教え・・・A当たり前のことを Bバカにしないで Cちゃんと取り組む 当たり前のこととは・・・コート、機材の確認、ディレクション、立ち位置、四原則の取り組み 等々 →信頼関係を構築するための取り組み・・・グレーの時ほど審判が必要になる。少しでも納得してもらうために</p> <p>○コート外での取り組み: ・審判技術向上:国内、海外問わず映像をたくさん観る ・語学力の向上:英語に触れる機会を増やす</p>		
小坂井郁子氏: 判定基準をもって、コートに立っていますか?		
<p>○基準の示し方・・・基準を示しているゲームはわかりやすくスッキリしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファウルだけでなくヴァイオレーションも←マイクロではなく ・各カテゴリーにおいて→基準は変わらない、適用の幅が違ってくる ・1Qでも4Qでも、そのPLAYが最初に行われたとき、ゲームの様相が変化したときの1つめに判断する →厳しくファウルにする、ではなくOKの判断も大切である ・プレゲームカンファレンス・・・それぞれが役割に集中できるようにするために <p>○判定基準を示すには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シリンダーの概念・・・ルールブックに示されていることを理解する →それぞれに認められている権利、後方に下がりながら守る権利がある ・不当な手の使い方、体の寄せ方の見極め <p>○ルールの理解・位置取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い位置にいれば、次の展開も見る事が出来る→長く見ることができて見極めることができる <p>今のPLAYにギリギリだと次には間に合わない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い位置取りから判定するまで・・・移動する→確認する→判断する→判定する <p>○まとめ・・・基準を示すためにスキルをあげる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1ゲームを積み重ねる→モチベーションになる→良い審判、審判される審判になる・・・この繰り返しである 		

実技				
担当試合	期 日	6月6日(土)	男子 (女子)	Bブロック二回戦
	対戦カード	駒澤大学高等学校(東京都)	VS 宇都宮中央女子(栃木県)	(主審) 副審
	相手審判	穂川苑子 氏 (群馬県)		
ミーティング内容		主任 岩本涼子氏(神奈川県)・阿部哲也氏(日本協会)		
<p>岩本氏:T・Oへの対応、24Sの成立など丁寧でわかりやすく示されていた 自分のスペースではない現象(オルタ)については無理をしないこと 阿倍氏:手の使い方、下がりながら守ることについて見極めをすること、吹いて収めることのないように 日本公認講習会:渡辺雄吉氏(日本協会)</p>				
<p>○「判定力」・・・いつでもどこでも同じように吹く(良いとは?悪いとは?どんなことか) ・選手はバスケットをしている、見ている人はバスケットを観ている →審判は悪いもの、良いものを見つけようとしている←だからズレができる 起こったことを判定するのではなく、バスケットの判定をする ・技術、戦術の理解・・・選手からのアピールで気づかせてもらった ・ランクアップのために・・・ 試合を上級審判と観てたくさん質問をする→コートで実践する→数を吹き成功と失敗をすることが経験値となる (ファウル・インターフェアなど起こりうる現象への備えとなる) ・瞬間の判定にならないために・・・ 「目」で集める←どうつかまえるか、40分どれだけできるか 指導しているときと同じように、広い視野を持つ ・クロスゲーム・・・何をどこでみているか 最初の5分→見ていることを伝える、手の使い方についての判定 最後の1分→ミスは絶対にしない・・・試合の勝ち負けを決めない</p>				
<p>日本公認講習会:阿部哲也氏(日本協会) ○経験を積むことが自信になる ・質、スピードへの対応・・・引き出しを増やす←経験を積むために割当をもらう(抜擢される) ・向上心、研究心を持って取り組む→チーム、選手、技術を理解する 最大限に力を発揮させるために→1つ1つ見極めて積み重ねる</p>				
実技				
担当試合	期 日	6月7日(日)	男子 (女子)	Aブロック準決勝
	対戦カード	昭和学院 (千葉県)	VS 明秀学園日立(茨城県)	U1
	相手審判	R:安西郷史 氏(本部)・U2:石鍋光智代 氏(東京都)		
ミーティング内容		主任 小坂井郁子氏(指名)・渡辺雄吉氏(日本協会)		
<p>小坂井氏:ゲームの入りでいくつか判定をしたことで、試合がスムーズに流れていった トールで確認が必要な現象に対して三角形が小さくなっていて良かった Lでペイントに吸い込まれないようにする、CであがってPLAYを見なくなるが下から確認する位置取りの工夫を 渡辺氏:リバウンドについて、次の展開に関係なく取り上げて良いものがあった 自分のエリアについて見極めて判定する</p>				
全体の感想				
<p>昨年に引き続き、日本協会講師の方からもご指導いただくことができる今大会に派遣をいただき、講師の方々と実際の試合を観ながらたくさんのお話を聞くことができました。小坂井氏のレクチャーにもあった、下がりながらディフェンスすること、触合いの責任について見極めること。また、手の使い方については「手を使わせない」ことではなく「悪い手の使い方について取り上げる」という観点から見極めること。という阿部氏のお話が印象に残りました。自分自身としては、PLAYをていねいに確認して素直に判定をすることを大切に取り組み、その上で試合後に講師の皆さんから講評をいただくことができ、次につながるとても良い時間となりました。最後に、山梨県の皆様には悪天候にご対応くださり、たくさんのお気遣いをいただき大変お世話になりました。また、ご指導いただきました皆様、今回派遣していただきました埼玉県の皆様にも心より感謝申し上げます。ありがとうございました。</p>				